

高崎教授が「腹部症状を伴う脳脊群炎症」の書名で、現在 SMON と呼ばれている病気の全貌を紹介したのは昭和42年のことであった。今回「SMON」が同教授と金丸助教授の共著で出版されたが、これは前書をその後の研究の進歩に伴って大幅に改訂したものである。

前書がすでに、本症の歴史から当時における最新の知識を網羅した名著であった。しかし、本症の研究はその後急速な進歩をしているので、わたくしは高崎教授が改訂版を出されることを心から希んでいたもので、今般本書が出版されたことを心から喜んでいる。内容も期待どおりであり、その後明らかになった事実を広く収録しており、すっかり装を新にしている。前書と同じく、歴史、病理、病因、疫学、症候、診断ならびに鑑別診断、経過ならびに予後、治療という項目で、すべてが解説されている。研究の進歩に伴い、内容が

□ 書 評 □

SMON

〔著者〕

高崎 浩 三重県立大学学長
金丸 正泰 三重大学助教授

新潟大学教授・神経内科

椿 忠雄

大幅に改訂されたため、著者は改訂版とせず、書名も改められた由であるが、前書と比較すればそれはよく理解できるところである。

本書には、現在のみならず過去の研究の発展も述べられているので、研究の歴史を知ることでもある。このように集中的に研究の行われた領域では、文献をもれなく集め、それ

を手際よくまとめなければならず、それは大変な努力を要する仕事である。本書はその意味でも、研究者のみならず、本症を知ろうとする医師や学生により参考書となろう。

強いて希望をいえば、SMON とキノホルムに関する疫学的研究（関係を肯定する研究も疑義をはさむ研究も含めて）をもう少し詳しく紹介して頂きたかったことである。

著者が脱稿されたのが、昭和47年ごろのようであり、日進月歩のSMON 研究はその後2年間にさらに前進している。同教授らが近い将来に、これらの進歩を加えてさらに改訂版を出されることを希望している。これは大変な御努力をお願いすることになるが、本書以外にこれの完成を期待することができないからである。

A 5 頁162 図14 写真76
原色図5 罫4,000 罫140
医学書院刊